

2025. 8. 8

TOYOBO
Beyond Horizons

2025年度 第1四半期 決算説明

東洋紡株式会社
執行役員 CFO 管理部門統括
斧 泰三

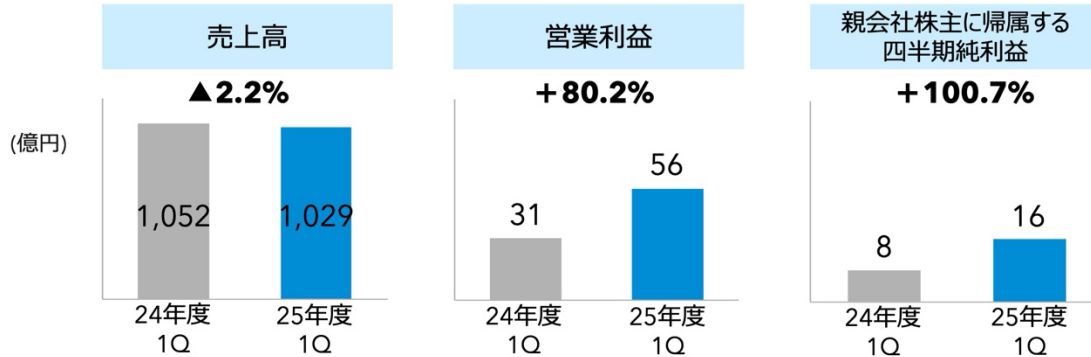
おはようございます。本日は、弊社の決算説明会にご参加いただきありがとうございます。また、平素は弊社をお引き立ていただいておりますことあわせてお礼申し上げます。それでは、25年度第1四半期決算について説明させていただきます。

決算のポイント

TOYOBO

第1四半期 実績

工業用フィルムは堅調持続。包装用フィルムの収益改善も加わり、増益。
営業利益は 56 億円、四半期純利益は 16 億円



2026年3月期 通期予想

包装用フィルムをはじめとする要改善事業の収益改善、および工業用フィルムの堅調な需要に支えられ、
営業利益 210 億円、当期純利益 45 億円の予想を据え置く

2

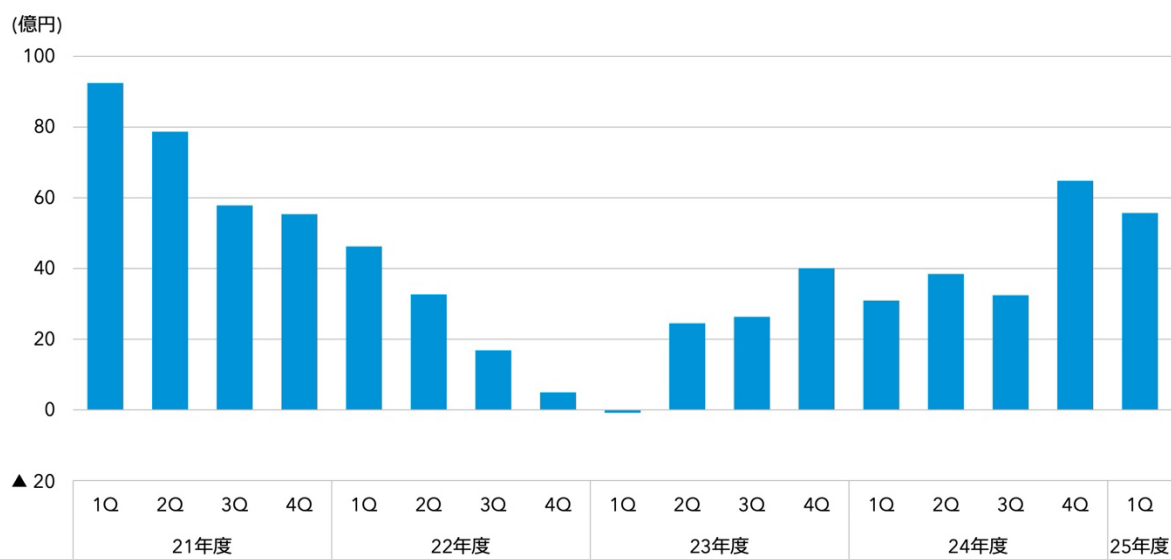
決算のポイントです。25 年度第 1 四半期の業績は、グラフに記載のとおりです。売上高は 2.2% の減収、1,029 億円となっています。営業利益は 80.2% の増益、56 億円です。親会社株主に帰属する四半期純利益は 100.7% の増益、16 億円です。

営業利益は大幅な増益となりました。工業用フィルムの堅調が持続し、包装用フィルムの収益改善が加わり、増益となりました。営業利益が大幅に増加したことで、四半期純利益も大幅に増益しています。

2026 年 3 月期の通期予想は、期初に公表した数値を据え置いています。従いまして、営業利益は 210 億円、当期純利益は 45 億円と考えています。

(参考) 四半期別営業利益推移

TOYOB0



3

四半期別営業利益の推移です。21年度以降、原燃料価格の上昇とともに苦戦してまいりましたが、23年度1Qを底にして、着実に回復基調にあると考えています。

決算サマリー | PL

TOYOBO

	24年度 1Q	25年度 1Q	増 減		(億円)
			金 額	率	
売上高	1,052	1,029	▲ 23	▲ 2.2%	
売上総利益	231	252	+21	+9.1%	
営業利益	31	56	+25	+80.2%	
(率)	2.9%	5.4%	-	-	
営業外損益	▲ 11	▲ 13	▲ 2	-	
経常利益	20	43	+23	+111.8%	
特別損益	1	▲ 13	▲ 13	-	
非支配株主に帰属する 四半期純利益 (控除)	8	4	▲ 4	-	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8	16	+8	+100.7%	
EBITDA* *営業利益+減価償却費 (のれんを含む)	87	114	+27	+31.5%	
EPS (円)	8.9	17.8	-	-	
減価償却費	56	59	+3	+4.6%	
設備投資	138	66	▲ 71	▲ 51.9%	
研究開発費	37	35	▲ 3	▲ 6.9%	

4

決算サマリー、PL です。業績については、決算のポイントでお示した通りです。

売上総利益は、252 億円、前年比 21 億円の増益となっています。こちらを率に換算しますと 24.5%で、前年同期比 2.5 ポイントの改善です。価格改定によるスプレッドの改善、不採算商材からの撤退等の効果であると認識しています。

営業利益は 56 億円です。営業外損益、特別損益、非支配株主利益を控除した結果、親会社に帰属する四半期純利益は 16 億円となっています。営業外損益、特別損益については後ほどご説明します。

EBITDA は、営業利益の改善により 114 億円となり、前年同期比 27 億円増加しています。また、設備投資は 66 億円と、前年同期比 71 億円減少しています。先行投資が続いていましたが、おおむねピークアウトし、減価償却費と設備投資の額が同水準になってきました。

営業外損益・特別損益

TOYOBO

営業外損益 内訳 (億円)				特別損益 内訳 (億円)			
	24年度 1Q	25年度 1Q	増 減		24年度 1Q	25年度 1Q	増 減
為替差益	4	-	▲ 4	関係会社株式売却益	4	-	▲ 4
その他	6	7	+1	その他	0	-	▲ 0
営業外収益 計	10	7	▲ 3	特別利益 計	4	-	▲ 4
支払利息	4	7	+2	固定資産処分損	3	3	+0
為替差損	-	4	+4	退職給付制度改定損*	-	9	+9
その他	17	9	▲ 8	特別損失 計	3	13	+10
営業外費用 計	21	20	▲ 1	特別損益 計	1	▲ 13	▲ 13
営業外損益 計	▲ 11	▲ 13	▲ 2				

* 一部の連結子会社において退職給付制度の一部を廃止

5

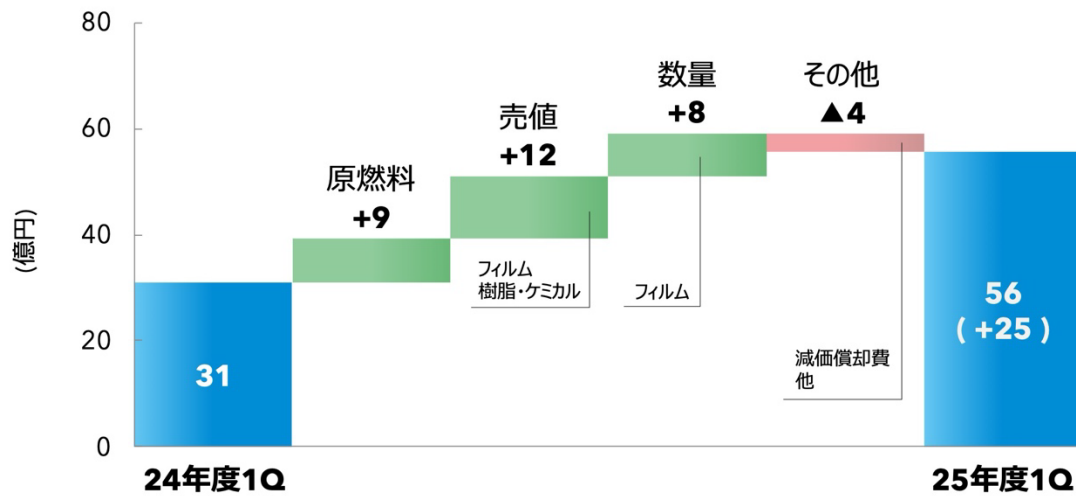
営業外損益、特別損益の内訳です。

営業外損益は、まず為替の差損益からご説明します。24年度1Qは為替差益を4億円計上しましたが、25年度1Qは為替差損が4億円となり、8億円の差があります。それに対して、営業外費用のその他が前期同期比8億円減少しています。こちらは細々したものの積み上げですが、為替差損益で8億円打たれたものの、その他の費用で8億円圧縮し、結果として営業外損益は前年並みでした。

特別損益は、特損として、固定資産処分損が3億円あり、退職給付制度改定損が9億円、これは一部の子会社において退職給付制度の廃止をした関係で計上しています。

営業利益の増減要因

TOYOBO



	23 年度				24 年度				25 年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
為替レート (円/US\$)	137	145	148	149	156	148	152	152	144
国産ナフサ (千円/kl)	67	64	73	73	79	77	73	74	65

6

営業利益の増減要因です。24 年 1Q の 31 億円に対して、25 年度 1Q は 56 億円となり、この差 25 億円について、原燃料、売値、数量、その他で分析しています。

原燃料因は、9 億円の増益効果でした。下の枠外に国産ナフサの指標を記載しています。25 年 1Q は 6 万 5,000 円/kl で、24 年度 1Q は 7 万 9,000 円/kl でした。2Q、3Q、4Q と、順次価格が下がってきた効果がありました。

売値因は、12 億円の増益効果でした。24 年度に段階的に値上げを実施してきた効果が、期初からフルに寄与しています。フィルム、樹脂・ケミカルで値上げの効果が実現しています。

数量因は、8 億円の増益でした。液晶偏光子保護フィルムは引き続き堅調に推移していますし、その他の工業用フィルムも数量を伸ばしています。

その他因は、減価償却費等の費用です。

決算サマリー | BS

TOYOB0

	(B)		(A)	(億円)
	24/3末	25/3末	25/6末	増 減 (A)-(B)
総資産	6,070	6,178	6,115	▲ 63
現預金	338	286	308	+22
売上債権	1,028	1,062	987	▲ 74
棚卸資産	1,220	1,190	1,207	+17
有形固定資産	2,815	2,965	2,970	+5
純資産	2,301	2,320	2,287	▲ 34
自己資本	1,970	1,953	1,934	▲ 19
うち利益剰余金	703	690	670	▲ 20
非支配株主持分	331	367	352	▲ 15
有利子負債	2,492	2,679	2,719	+40
D/E レシオ	1.26	1.37	1.41	-
D/E レシオ（資本性調整後）*	-	1.15	1.18	-

* 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/Eレシオ

7

決算サマリー、BS です。総資産は 6,115 億円と、前期末比 63 億円の減少でした。売上債権が 74 億円減少しています。運転資金の圧縮に向けて売上債権の圧縮に取り組んでいる最中です。

有利子負債が今期末は 2,719 億円と、前期末比 40 億円増加しています。こちらは、予定している社債の償還に向けた資金を前倒しで調達しています。その関係で、25 年度 6 月末では一時的に有利子負債が膨らみました。

D/E レシオは 1.41 倍、資本性を調整した後は 1.18 倍と、若干高めですが、管理の範囲内と考えています。

また、業績の改善により、営業キャッシュ・フローは改善方向にあります。設備投資がピークアウトしたため、投資キャッシュ・フローも改善方向にあり、フリー・キャッシュ・フローは今期プラスに転換しています。今後、運転資金の圧縮を進め、さらなるキャッシュ・フローの改善、ひいては財務体質改善に努めていきます。

決算サマリー | セグメント別

TOYOB0

(億円)

	売上高		営業利益		
	24年度 1Q	25年度 1Q	24年度 1Q	25年度 1Q	増 減
フィルム	421	446	15	40	+25
ライフサイエンス	81	80	4	2	▲ 2
環境・機能材	281	254	13	15	+2
機能繊維・商事	240	219	2	1	▲ 1
不動産・その他	29	30	5	5	+1
消去・全社	-	-	▲ 7	▲ 7	+1
合計	1,052	1,029	31	56	+25

8

決算サマリー、セグメント別です。営業利益は、フィルムが大幅な増益を果たし、それ以外は、ほぼ前年度並みでした。

	24年度	25年度	増減		(億円)
	1Q	1Q	金額	率	
売上高	421	446	+25	+5.9%	
営業利益	15	40	+25	+166.4%	
(率)	3.6%	9.0%	-	-	
EBITDA	39	65	+26	+65.5%	

包装用フィルム

- 人件費や物流費などの製造コスト上昇に対し、製品価格の改定を進め、収益が改善

工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、販売が拡大

まず、フィルムは、売上高 25 億円の増収、営業利益 25 億円の増益と、増収増益の決算でした。

包装用フィルムは、物流は流通在庫の調整が完了し、市場は正常化してきています。製品価格の改定を進め、収益は順次改善方向に向かっていきます。

工業用フィルムは、液晶偏光子保護フィルムが堅調に推移しました。テレビの販売台数は横ばいですが、全体的に大型化が進み、面積ベースでは市場拡大と見ています。セラミックコンデンサ用離型フィルムは、販売が拡大しました。

	24年度	25年度	増減		(億円)
	1Q	1Q	金額	率	
売上高	81	80	▲ 0	▲ 0.6%	
営業利益	4	2	▲ 2	▲ 56.4%	
(率)	4.6%	2.0%	-	-	
EBITDA	12	11	▲ 0	▲ 3.9%	

バイオ

- 診断薬用原料酵素は、前期の生産性低下の影響が残り、収益悪化

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜は、販売が堅調に推移

医薬

- 製品価格の改定が進捗し、収益性が改善

ライフサイエンスです。売上高は前年同期並みで、営業利益は 2 億円の減益でした。

バイオは、生化学診断用原料酵素の受注が、国内外ともに堅調に推移しています。ただし、24 年度下期に、一部のバイオの銘柄で原料不作による原料代の上昇、また生産性の低下といった影響があり、それらが今期も一部残ったため、収益は悪化しました。

メディカルは、人工腎臓用中空糸膜が順調に推移しました。また、医薬も製品価格の改定が進み、収益は改善方向です。

	24年度	25年度	増減		(億円)
	1Q	1Q	金額	率	
売上高	281	254	▲ 26	▲ 9.4%	
営業利益	13	15	+2	+15.0%	
(率)	4.5%	5.8%	-	-	
EBITDA	24	26	+2	+6.8%	

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、海外向けの自動車用途の販売が低調も、製品価格の改定が進捗
- 工業用接着剤“バイロン”は、塗料・接着用途や電子材料用途の販売が増加
- 光機能材料（感光性樹脂版）は、中国や東南アジア向けの販売が堅調に推移

環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、EV市場減速の影響により、LIBS*製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が減少
- 不織布マテリアルは、国内生産体制の見直しが進み、収益性が改善

* リチウムイオン電池セパレータ

環境・機能材は、売上高 26 億円の減収ですが、営業利益は 2 億円の増益でした。

樹脂・ケミカル、エンジニアリングプラスチックは、海外向けの自動車用途の販売が低調でしたが、製品価格の改定により業績が改善しました。工業用接着剤“バイロン”は、欧米向けの塗料・接着用途、東南アジア向けの電子材料用途の販売が増加しました。光機能材料は、中国や東南アジア向けの販売が堅調に推移しました。

環境・ファイバーは、環境ソリューションにおいて、世界的な EV 市場の減速を受け、LIBS 製造工程で使用される VOC 回収装置の出荷が減少しました。また、不織布マテリアルは国内生産体制の見直しが進み、収益性が改善しました。

	24年度	25年度	増減		(億円)
	1Q	1Q	金額	率	
売上高	240	219	▲ 21	▲8.8%	
営業利益	2	1	▲ 1	▲64.6%	
(率)	0.8%	0.3%	-	-	
EBITDA	8	7	▲ 1	▲12.9%	

衣料繊維

- 中東向け特化生地は、強い需要により販売が増加
- スポーツ用途は、不採算商材からの撤退が進展

エアバッグ用基布

- 日系顧客のアジアでの減産影響を受け、販売量が減少

機能繊維・商事は、売上高が 21 億円の減収、営業利益は 1 億円の減益でした。

衣料用繊維は、中東向け特化生地が、引き続き強い需要により販売が増加しました。スポーツ用途は、不採算商材からの撤退が進展しました。

エアバッグ用基布は、米国の関税の影響による日系顧客のアジアでの減産影響を受け、販売量が減少しました。

2025年度の事業環境見通し

TOYOB0

セグメント	事業	期初想定 米国関税影響の織り込み無し	今回見通し	
			対想定*	
フィルム	包装用	前年度並みの需要	－	前年度並みの需要
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは前年度並みの需要	－	前年度並みの需要
		MLCCはAIサーバー向けを中心に需要拡大	－	AIサーバー向けを中心に需要拡大
ライフサイエンス	バイオ	生化学診断薬用酵素は需要堅調	－	需要堅調
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は需要堅調	－	需要堅調
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車用途は前年度並みの需要	▲	米国相互関税の影響懸念
		電子材料用途は需要回復基調	－	需要回復基調
	環境・ファイバー	VOC回収装置はEV化減速の影響継続	－	EV化減速の影響継続
		不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続	－	厳しい競争環境は継続
機能繊維・商事	エアバッグ	前年度並みの需要	▲	アジアの減少に加え、米国相互関税の影響懸念
共通		国産ナフサ価格は低下傾向	－	国産ナフサ価格は低下傾向

* 期初想定に対し、○：改善・拡大、－：想定通り、▲：悪化・減少 13

2025 年度の事業環境見通しです。5 月に公表した後 3 カ月経過していますが、各事業で当初想定からほぼ変化はありません。

樹脂・ケミカルの自動車関係、エアバッグは、米国関税の影響懸念を追記しました。

2025年度 業績見通し

TOYOBO

包装用フィルムをはじめとする要改善事業の収益改善、および工業用フィルムの堅調な需要に支えられ、営業利益 210 億円、当期純利益 45 億円の予想を据え置く

	24年度	25年度	増 減		(億円)
	実績	見通し	金 額	率	
売上高	4,220	4,400	+180	+4.3%	
営業利益	167	210	+43	+26.1%	
(率)	3.9%	4.8%	-	-	
経常利益	106	155	+49	+46.4%	
特別損益	▲ 34	▲ 45	▲ 11	-	
親会社株主に帰属する 当期純利益	20	45	+25	+124.6%	
EBITDA	394	460	+66	+16.9%	
EPS (円)	22.7	51.0	-	-	
減価償却費	227	250	+23	+10.1%	
設備投資	432	350	▲ 82	▲ 18.9%	
研究開発費	143	150	+7	+5.2%	

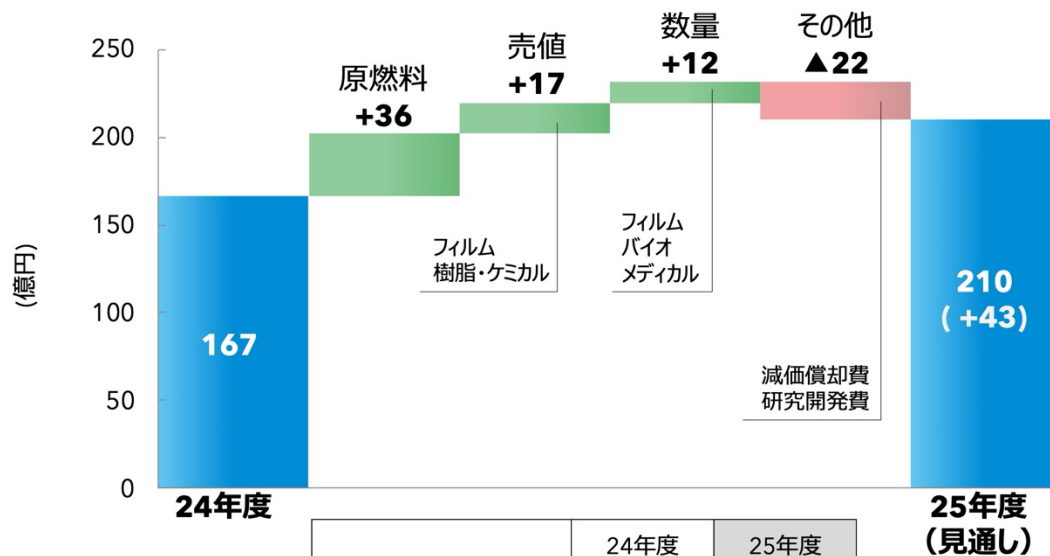
14

2025 年度通期の業績見通しです。年初に公表した数値は据え置いています。

足元の 25 年 1Q の業績を見ますと、据え置きはやや保守的ではないかというご指摘もあらうかと思いますが、1Q の業績は、一部で米国の関税影響による前倒し需要が含まれていたと想定しており、今後、反動の懸念があります。また、そもそも米国関税の全体像が現時点においてもまだ明確ではないため、間接影響も含めて、現時点では影響度の測定は難しいと考えています。従いまして、上期の終了時点であらためて精査する予定です。

営業利益の増減要因

TOYOB0



	24年度	25年度
為替レート (円/US\$)	152	145
国産ナフサ (千円/kl)	76	65

15

通期の営業利益の増減要因です。24年度の167億円に対し、25年度の見通しを据え置きましたので210億円となり、増減幅43億円は期初と変わっていません。

ただし、分析の中身は、足元の状況を見ながら若干見直しています。原燃料因は、期初は30億円と見ていましたが、今回36億円に見直しました。国産ナフサ価格を期初は7万円/klと想定していましたが、足元では6万5千円/klとしており、その分の見直しです。

売値因は、期初時点では15億円と見ていましたが、足元でフィルム、樹脂・ケミカル等で価格改定が進行していますので、17億円に見直しました。

数量因は、期初時点では20億円と見ていましたが、包装用フィルムの量が想定よりは伸びていないことと、メディカルの新設備の寄与が遅れていることを踏まえ、期初時点の20億円から12億円に見直しました。

その他因は、減価償却費等で、期初の数字を据え置いています。

セグメント別見通し

TOYOBBO

売上高	24年度 実績			25年度 見通し			通期 増減	直近予想 (25/5)			(億円)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期		上期	下期	通期	
フィルム	828	840	1,668	900	850	1,750	+82	900	850	1,750	
ライフサイエンス	172	171	343	200	210	410	+67	200	210	410	
環境・機能材	552	556	1,108	550	620	1,170	+62	550	620	1,170	
機能繊維・商事	479	501	981	450	500	950	▲ 31	450	500	950	
不動産・その他	60	60	120	60	60	120	+0	60	60	120	
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	2,092	2,129	4,220	2,160	2,240	4,400	+180	2,160	2,240	4,400	

営業利益	24年度 実績			25年度 見通し			通期 増減	直近予想 (25/5)			(億円)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期		上期	下期	通期	
フィルム	30	39	69	53	37	90	+21	43	37	80	
ライフサイエンス	9	11	20	7	28	35	+15	12	28	40	
環境・機能材	34	46	80	33	54	87	+7	33	57	90	
機能繊維・商事	1	4	5	3	8	11	+6	3	10	13	
不動産・その他	12	14	26	11	11	22	▲ 4	11	11	22	
消去・全社	▲ 16	▲ 17	▲ 33	▲ 17	▲ 18	▲ 35	▲ 2	▲ 17	▲ 18	▲ 35	
合計	69	97	167	90	120	210	+43	85	125	210	

16

通期のセグメント別の見通しです。売上高は、期初の見通しを据え置いています。営業利益は、セグメントごとに若干見直しを掛けています。

足元、好調に推移しているフィルムは、期初想定 of 80 億円から 90 億円に 10 億円プラスしました。

前期の操業性の悪化や、原料価格高騰の影響を受けているライフサイエンスは、5 億円マイナスに見直し、35 億円としました。

また、米国の関税影響を受け自動車関連が若干打たれるのではないかと想定し、環境・機能材は 3 億円マイナスに見直し、機能繊維・商事は 2 億円マイナスに見直し、合計の 210 億円は据え置きました。

以上、簡単ではありますが、決算の説明とさせていただきます。

今年度は、年初に公表した 210 億円の目標をなんとしても達成し、投資家の皆様をはじめ、関係者の皆様との信頼関係をより強固なものにしていきたいと考えています。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

17



補足

セグメント別情報

(億円)

売上高	24 年度					25 年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
フィルム	421	407	421	420	1,668	446
ライフサイエンス	81	91	85	86	343	80
環境・機能材	281	272	283	273	1,108	254
機能繊維・商事	240	239	233	268	981	219
不動産・その他	29	31	29	32	120	30
消去・全社	-	-	-	-	-	-
合計	1,052	1,040	1,051	1,078	4,220	1,029
営業利益	24 年度					25 年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
フィルム	15	15	8	31	69	40
ライフサイエンス	4	5	6	5	20	2
環境・機能材	13	21	23	23	80	15
機能繊維・商事	2	▲ 1	▲ 0	5	5	1
不動産・その他	5	7	6	8	26	5
消去・全社	▲ 7	▲ 9	▲ 10	▲ 7	▲ 33	▲ 7
合計	31	38	32	65	167	56

GPIF が採用する 6 つの ESG投資指数* すべての構成銘柄に3年連続で選定

*国内株式を対象

- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数
- MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)
- S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- Morningstar 日本株式 ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数 (除くREIT)



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



FTSE Blossom
Japan

FTSE Russell (FTSE International Limited/Frank Russell Company)の登録商標はここに東洋紡株式会社
が第三者所有の結果、FTSE Blossom Japan Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄と
なったことを証します。FTSE Blossom Japan IndexはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが
作成し、環境、社会、ガバナンス (ESG) について優れた対応を行っている日本企業のみをパフォーマンスを測
定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan IndexはESG投資のファンドや他の金融商品
の作成・評価に広く利用されます。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

THE INCLUSION OF TOYOBO CO., LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS,
TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP,
ENDORSEMENT OR PROMOTION OF TOYOBO CO., LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES.
THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES
AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.